

主な質問と答弁の要旨

徳田弘司議員

Q1 企業誘致について

工業団地の計画は？

問 昨年12月の「少子化対策 町も来年度予算案に様々な施策に取り組んでいるが、更に、人口減少に少しでも歯止めをかけるためには、若者の雇用の場の確保が必要であり、来年3月には、主要地方道多治見・白川線が開通し、将来的にはリニア中央新幹線の中津川駅が開業、国道418号の恵那市までのバイパス道路の完成が見込まれるなど、立地条件も飛躍的に良くなると思われる。企業誘致について、どのように考え、将来的に工業団地の計画があるのか伺いたい。

答 (田口産業課長)

当町もこれまでに、野上・和知・原工業団地等を造成し、積極的に企業誘致を行って参りました。他町村では企業誘致ができず、用地が塩漬けとなつてるところも見受けられます。当町よりも物流アクセスに恵まれ、かつ造成済みの用地を所

有している他町村に対抗して企業誘致を行うには、それなりの有利な条件が求められるわけですが、当町は、平坦地が少なく造成に多額の費用が必要となり、分譲価格も高額になることは明らかです。他町村に比べ有利な条件を提示することは非常に困難であり、今のところ工業団地を造成する計画はありませんので、人口減少対策としては、他の定住施策の促進を図っていきたいと考えております。しかし、経済動向により、企業側の進出希望があれば、第5次総合計画の中で、工業団地の造成に取り組みたいと思っております。

問 町長自らトップセールスとして企業誘致に取り組んで貰いたい。企業側の進出希望があった場合、団地・工場用地の確保を行う考えはあるのか。

答 (田口産業課長)

岐阜県では、平成26年8月に「岐阜県企業誘致戦略」を策定し、当町を含む中濃地区は、航空機関連クラスター地域企業誘致戦略推進協議会に所属しています。県は中濃地区での航空機産業の育成を図りたいと考えており、企業誘致の活動を行うとしていきます。これにより、進

出希望の企業があれば、当町の得意な分野であるネジ加工を活かし、積極的な誘致活動を行いたいと思っております。

Q2 「杉原千畝記念館」リニューアルオープンについて

さらなるPRが必要では

問 杉原千畝記念館が建てられてから15年が経過し、今月末にリニューアルされた。今月までにリニューアルオープンが予定されているが、この機会に八百津町の観光拠点として、観光客誘致の積極的PRをしていただきたい。また、本年は、八百津町合併60周年記念の年でもあり、町の広報紙に旧八百津発電所資料館と杉原千畝記念館をセットとした無料入場券を印刷・配布すれば、町民全員が観光大使となり、知人・友人・親戚の方々に口コミでPRしてもらえると思う。

さらに、現在空席となつている名誉館長に、知名度のある方をお願いし、PRの為、早急に選定していただきたい。また、八百津祭と久田見祭を紹介したDVDを作成する予算案が計上されているが、町内各地の自然あふれる観光地もスポット的に取り入れて、八百津町全体の観光の魅力をさらに発信してもらい、観光協会と町とが一体となり、観光客の誘致に取

り組んでいただきたいと思うが、町の考えを伺いたい。

答 (田口産業課長)

記念館のリニューアルオープンで今まで以上に入館者が増えることを期待しておりますし、一度来館された方々にも、是非とも新しくなった記念館の展示を見ていただきたいので、積極的なPRを進めて参りたいと考えています。

観光大使の起用については、現在、観光協会会員の皆様に依頼しようと思画されています。会員各自が所持の名刺に八百津町観光大使という小さなシールを貼っていただくというものですが、経費的にも安く効果的だと思えます。議員ご提案の町民全員が観光大使になつていただくというアイデアも、是非とも採用させていただきたいと思

います。リニューアルオープン期間と、夏の杉原ウィーク期間中には、記念館を無料開放し、多くの町民に来館していただきたいと思つていきますので、記念館と資料館の入館券をセットにして、広報紙に印刷し、各戸配布することも検討させていただきます。

名誉館長につきましては、現在空席となつておりますが、町民の皆様のご意見を伺い、適任者が見つければお願ひすることも可能かと思ひます。また、新年度において、八百津祭と久

田見祭のPRビデオを作成するよう予算措置をいたしました。このPRビデオを各方面で利用して観光客の誘致に繋げたいと考えておりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

問 町民全員に来館して、施設の良さを知ってもらいた

いので、1年間ぐらいは無料ということも検討していただきたい。また、名誉館長については、私個人的には、全国的に有名な方がいいのではないかと思っている

ので検討して下さい。続いて、町長の初心表明において、記念館を人間教育の場と置づけ、県内に限らず国内の高校生が訪れる施設として拡充したいとの考えを述べておられました。どのように取り組んでいられるのか伺いたい。

答 (堀部教育長)

現在、小中学校では総合的時間、社会科の時間を通して、記念館を活用しておりますが、その成果を学校ホームページに掲載することにより、全国の小中学校教職員に見ていただき、記念館を活用してもらえよう

